



「『バイオリンを通じて、いろいろな人に出会える。』とても素晴らしいことですよね。これから狭山でも多くの人に聴いてもらえるよう、頑張ります。」と清水さん。

多くの人に聴いてもらって
身近に感じてもらえるよう
温かな演奏を心がけています



清水英理子さん (バイオリニスト)

「練習していて思ったとおりには弾けなくて悔しかったことはありませんが、練習が辛いと思ったことはありません。バイオリンに関する思い出しは楽しいことばかりです。」と笑顔が素敵な清水さん。お姉さんのレッスンと一緒に、バイオリンについて面白そうだな、と思ったのがバイオリンをはじめたきっかけでした。そして小学3年生の時、高松市で漆原啓子さんの演奏を聴き、その美しくてやわらかな音色と、真つ白なまるでお姫様のようなドレス姿に、あんなに素敵になりたいな、と憧れたのだそうです。練習の好きな清水さんは小学6年生の時に全日本学生音楽コンクール全国大会で優勝、日本だけじゃない、世界もある、と言ってくれた先生の言葉どおり、中学2年生で第5回ウイニミアフスキ国際バイオリンコンクール・ジュニアの部で

5位に入賞。そして平成9年には第66回日本音楽コンクールで優勝するなど素晴らしい成績を収めていらっしゃいます。バイオリンの魅力はその質問に、バイオリンは弾くほどに音色がかわってきます。演奏に自分の思いが入れられるところが好きですね。ブルッフ作曲の『スコットランド幻想曲』なんかが得意です。」と答えてくれました。また、いつも心がけていることは、よく寝て、たくさん食べて、無理をしないこと。自然体で弾くこと。そして、一人でも多くの人に聴いてもらって、身近に感じてもらえるように演奏すること。」なのだそうです。

現在は桐朋学園大学でバイオリンを専攻しながら年間25回もの演奏活動を行っている清水さん。今月20日には市庁舎サロコンサートに出演されます。演奏する機会がたくさんあるのはいいことですね。練習していることもとても充実しています。」と笑顔で話してくれました。流れるようなバイオリンの音色が、皆さんを魅了することでしょう。



平成9年7月に石川県で開催された「いしかわミュージックアカデミー」でオーケストラの練習。休憩時には友だちと会話も弾みます。

私の趣味



彫金
こいのみかず
五井野富一さん（青柳在住）

私と彫金の出会いは今から20年前。友人に誘われたのをきっかけに、夢中になって練馬まで通って習いました。素材の銅板を彫る時に使う刃も自分で焼きを入れたり研いだり準備して、集中して取りかかります。色を付けて仕上げると深みも出てとてもきれいで、友人の新築祝いなどに贈って喜ばれたりもしました。また、たたいて凹凸を表現する方法にも挑戦していますが、厚さ1mmにも満たない一枚の銅板が、だんだん丸みをもって形になっていくことに創る喜びを感じます。そしてこの技術は模型を作るときなどにも役に立っています。昨年9月には堀兼中学校の生徒にも教える機会があり、楽しい一時を過ごすことができました。この趣味をこれからも続けると同時に、もっと多くの人にも親しんでもらえるよう頑張りたいと思います。

みんな生き生き元気いっぱい 「若い人には負けられません」 柏苑はそんな気持ちがあふれています



毎年春にハイパークで開催される「ふれあい広場」で、日ごろのコーラスの練習成果を発表します。「広場」に集まった大勢の人と一体となったさわやかな歌声が青空に響きます。

「いろいろなことに挑戦したり、お友だちとおしゃべりや子どもたちにお手玉や昔の遊びを教えたり、楽しんで

入居しているかたに伺ってみると、いろいろなことに挑戦したり、お友だちとおしゃべりや子どもたちにお手玉や昔の遊びを教えたり、楽しんで

は昭和57年の開所当時から福祉の先進市だったのだな」という印象を受けました。

ホームへの入居は、家庭や住宅の事情などで家族と一緒に生活できないけれど、日常生活は自分でできる60歳以上のかたが対象です。現在は68歳から98歳までのかたが入居し、平均年齢はなんと80歳外出も自由で、近くのバス停から買い物などに出かけます。80歳を過ぎてから一念発起して勉強し、パソコンの資格を取得したかた、趣味の旅行に出かけるかたなど皆さんお元気で、生き生きとしていらっしやいます。また、柏苑には皆さんが健康で明るい生活を送れるよう、コーラス生花、手芸書道、短歌などたくさんサークルがあり、それぞれボランティアの先生が指導に来てくださるのだそうです。こうした皆さんの作品は、県内のホームに入居しているかたの作品展で、県知事賞をはじめ数々の賞に輝いています。そしてこのようなサークル活動のほかにお花見やバーベキューなどを計画し、みんなで楽しんで、季節に合わせて趣向を凝らした催し物が開催されるほか、地元の自治会、保育所の子どもたちや中学生との交流会など、皆さんとても楽しみにしているのだそうです。



軽費老人ホーム柏苑
柏原 714 ☎ 953 - 7171

「最高ですよ。もちろん、飯もおいしい。そして所長さんの皆さんの健康が一番大切です。事務員、看護婦、栄養士、寮母、調理員、それぞれが一生懸命、365日お世話をさせていただいているんです。入居しているかたたちの家族の一員でありたいと思っています。」との言葉に頼もしさを感じるのと同時に、とてもほのぼのとした気持ちになりました。



写真や手芸、書など力作が展示されているロビーは、皆さんの憩いの場にもなっています。

REPORTER'S EYE



【リポーター】
明井美由紀さん
(上広瀬在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

皆さんは老人ホームという言葉にどんなイメージをお持ちでしょうか。今まで私は介護、寝たきりなどあまり明るいイメージを持っていませんでした。今回は、そんな私のイメージを180度変えてくれた、軽費老人ホーム「柏苑」を宮寺所長の案内で皆さんにご紹介します。

狭山市には特別養護老人ホームなど、ケアが必要なかたが入居している施設もありますが、柏苑は私のイメージとは全然違うところでした。

柏苑のように市が単独で運営する軽費老人ホームは、県内ではほかに秩父市と戸田市だけと聞いて、狭山市